

富山市 介護相談員だより 第24号

介護相談員パッチ

2023.03 富山市介護相談員 富山市新桜町7-38 富山市介護保険課内 TEL443-2206

～施設職員と介護相談員が意見交換会を開催しました(3年ぶりでした)～

2か所の施設職員より、施設での取り組みや活動、また介護相談員活動に関するアドバイスなどのお話を聞き、その内容も参考にグループに分かれて意見交換しました。

活動発表 1 “あきらめない”生活を目指して

グループホーム日和野 施設長 西田 朋子 氏

- 1 掃除、調理盛り付け、献立書き等、利用者は自分の
できることをする。

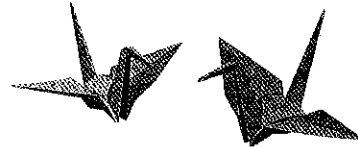
(買い物はコロナ禍でできない。月2回
移動スーパーにて自分で選んだりした。)

- 2 口腔ケア・栄養の工夫の取組みでいつまでも自分で
おいしく食べられるように

口腔ケア …… 口粘膜のマッサージ、月1回の診療
栄養 …… ヨーグルト、魚肉ソーセージで
タンパク質をとる工夫をした。

- 3 地域交流(小学校との心の交流、オンライン活用)

俳句、千羽鶴作り、学習発表会の見学など



活動発表 2 ”施設の工夫を紹介します”

三寿会 統括施設長 生駒 裕子 氏

- 1 地域密着型の施設では、オンラインを活用している。
また、ガラス窓越しの面会を実施。

- 2 壁に作品を展示したり、グループ単位で分けて
行事を開催するなどの工夫をした。

- 3 施設内でできる行事の内容を工夫している。
食事に関する行事が喜ばれる。
(ピザトーストづくり、ポップコーン実演など)

- 4 施設(入所者)と意見交換会の会場をZoomでつなぎ直接やりとりした。
(オンライン面会の実演)



～意見交換会の内容より(施設と介護相談員の意見交換、情報交換)～

日程等 令和4年11月2日(水) 大会議室にて開催 参加施設 10か所(他20か所より報告書あり)

悩んでいること

面会制限中に、家族から面会したいと言われ苦慮した。

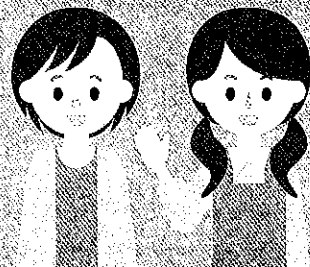
介護士不足。養成校が定員割れしている。中途採用や外国人採用もしている。

オンラインでは本人が家族を認識できないことがあった。

ドライブするなど工夫した施設、職員不足でできない施設がある。

気をつけているが感染者が出てしまう。

来訪者の体調把握が難しい。



工夫していること

LINEで家族とつなぎ、食事の様子などを動画で見てもらった。

避難訓練に地域の方も参加してもらえ、地域交流の機会となった。

施設でおやつ作りは好評。



相談員活動へのご意見、期待など

職員が気づけない点を教えてもらえる。

本人の思い等を聞ける機会となり良い。

利用者の刺激になる、励みになる。

相談員の訪問を理解していない職員もあり、PRの工夫があるとよい。

職員へのねぎらいがやる気につながる。

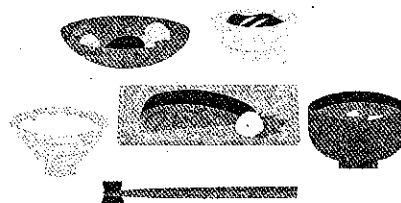
介護相談員活動とは

介護相談員は、介護保険施設を訪問し、ご利用者やご家族が困っていること、疑問に思っていること、施設にお願いしたいことなどをお聞きし、また介護相談員自らが気づいたことなどを施設にお伝えすることで、施設で安心して過ごせ、よりよいサービスが受けられるよう、施設との橋渡し役を担っています。

〈※令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が減りました。〉

受入れ施設	特別養護老人ホーム	老人保健施設	グループホーム	相談件数
令和元年	37 (施設)	17 (施設)	42 (施設)	9,195件
令和2年	38	16	43	248件
令和3年	26	12	31	832件
令和4年	20	9	31	1,036件(4~9月)

【定例会2】 研修報告 令和4年7月12日(火)開催



講義 「高齢者の栄養について」

講師 富山市保健所 玉扶持管理栄養士

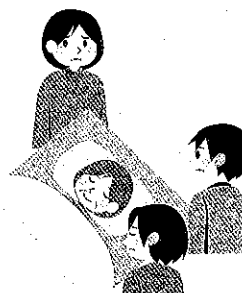
1. 低栄養とは	栄養障害の一つ。体の維持に必要な栄養が欠乏している状態。
2. 問題点	食欲低下、全体の食事量の低下、硬い肉、野菜を敬遠する。
3. 適切な食事	食べやすくする工夫、栄養を摂る工夫。
4. 施設の栄養管理	高齢者の栄養ケア・マネジメント、嚥下機能に配慮した食事。
5. 安全に食事を 楽しむポイント	<ul style="list-style-type: none"> ● 覚醒していますか(しっかり目覚めてもらいます) ● 正しい姿勢ですか(食べ物の逆流防止) ● 口の中はきれいですか(嚥下がスムーズに行えるように)

栄養改善に期待されること

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 1. 低栄養の状態の改善 | 4 認知機能の維持 |
| 2. 誤嚥性肺炎など感染予防・発熱の減少 | 5. 生命予後の改善 |
| 3. QOL(生活の質)の向上 | 6. 要介護高齢者、家族、介護者それぞれの満足度の上昇 |

感想 高齢者がより良いケアで安心して暮らしていけるよう一緒に笑顔で活動できればと思います。

【定例会3】 研修報告 令和4年9月13日(火)開催



講義 「施設における看取りについて」

講師 まちなか総合ケアセンター 高瀬医師

1. 死因の第1位は「がん」2位「心疾患」3位から「老衰」「脳血管疾患」…

	状態	終末期のおおよその経過
がん	痛み、息苦しい、腹水がたまるなど、部位による。	比較的、長期間状態が保たれ最後の2か月程度で急激に機能が低下する。
心疾患	心不全が多い。息苦しい。	改善、悪化を繰り返し、徐々に機能低下し最後の悪化のタイミングで亡くなる。
老衰 脳血管疾患	老衰は機能が徐々に低下。 脳血管疾患は麻痺など。	機能が低下した状態が長く続き、さらにゆっくり低下していく。

2. 戻れる見込みがあれば積極的に治療を受ける。救急車を呼ぶこと、病院に行くこと。
3. 亡くなる場所として、施設・在宅死のニーズはあり少しずつ増えている。
4. 臨終に立ち会いたい、立ち会えるかどうかを家族や医療者と確認しておくこと。
5. 看取りができる施設に基準や資格は不要。特養も訪問診療を利用できる場合がある。

感想 コロナ禍は看取りにも面会制限など複雑な課題があると感じました。

施設紹介

医療法人社団いずみ会

グループホームいずみの家

感想

コロナ禍でも工夫して行事を実施され、内容を聞くのも楽しみです。

医療法人社団いずみ会「グループホームいずみの家」は、平成15年4月に開設し、3ユニット(1ユニット9名)27名の利用者様が賑やかに暮らしています。

当法人の理念である「その人らしさ、その人の意思そしてその人の生活を大切に可能な限り自立した生活を送れるよう支援していきます」を基に、私ども職員は

- ① 慣れ親しんだ生活習慣が守られる暮らし
- ② 共同生活を通じた役割のある暮らし
- ③ その人の能力に応じた自立した暮らし
- ④ 利用者・スタッフ・地域社会との絆を大切にした暮らし

を常に心がけて従事しています。

各ユニットにある台所で、職員と利用者様が一緒に、3食分の料理をしたり、家事などの作業をしたり、レクリエーションを楽しんだり、日々充実し笑顔溢れる生活を支えたいと思っています。

また当法人が運営する病院(内科・精神科・リハビリテーション科)との連携体制も整い、医療面が充実していることも特長の一つです。

来年度は開設20周年を迎え、これからも地域の拠点のひとつとして、貢献できるように尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ホームページ <https://izumikai.mutsumi-gr.jp/>



編集後記

新型コロナウイルス感染症が流行して丸3年経ち、感染拡大と収束が繰り返される中、マスク着用、消毒、換気を徹底し、3年ぶりに意見交換会を開催できました。私自身、初めての参加で、コロナ禍での工夫、新しい取り組みなど、お話を伺う中から、励みとなる言葉もいただきました。

利用者の方だけでなく、介護職員の方ともコミュニケーションをとらせていただきながら、更なるサービス向上のお手伝いができるよう、今後も務めていきたいと思っております。

発行にあたり、寄稿やご協力して下さった皆様に心より感謝申し上げます。

〈編集委員：新川・角・高稲〉